



同友しずおか

題字：塩崎敬子氏 三島支部



私の逸品

自社生産の食材で食育と職育を

株つぼぐちフードサービス

詳細はWEBで！ (御殿場支部)

静岡同友会

検索

特集

次代を担う青年経営者 展望を語る

会員訪問記

高田 奈々氏 (株)ギャロップ・静岡支部

大竹 政彦氏 (有)富士清掃センター・富士支部

シリーズ

経営指針 ～激動の時代の羅針盤～ **三輪 雅則氏** (株)マルイチ・榛原支部

その他 主な内容

景況調査記者発表、三島支部賀詞交歓会、支部だより、静岡大学連携講座、新入会員紹介、友達の輪、イントロin志太

平成27年度 重点課題

- ① 経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③ 元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。

次代を担う青年経営者 展望を語る

静岡同友会では昨年、青年部の設立に向けて準備会が立ち上がりました。そのメンバーの中から9名の方に、青年部設立にかける想いや考え、同友会活動の展望を、自社経営を交えて語って頂きました。そこで、1月号・2月号の2ヶ月にわたり、2回に分けて掲載致します。



「次世代への青年による青年のためのバトンリレー」

私たち青年中小企業家と呼ばれる今の世代は、高度経済成長とバブル崩壊という国内景気の良い時、悪い時を経験してきた先輩のもとに、インター

ネット、本格的なIT社会の到来、企業の海外進出、リーマンショックを経験してきました。言うなれば国内だけでなく世界規模で物事を見なければならぬ進化した景気観の中で経営活動をしています。一方、足元ではTPPや少子高齢化など、これから次世代にバトンリレーしていく上での課題やチャンスが待ち構えています。

これから工業や商業だけでなく農業やサービスも、時には行政までがボーダーレス化して新たな連携、融合による新産業も創出していきます。このような時代を青年中小企業家としての確に認識し、リスクや戦略を自らの目で見て判断し、自らの手で行く方向を指し、自らの足で歩いていく、そんな立ち位置に我々はいるのではないのでしょうか。

そのような中で、高い志を持った同友会の仲間によって、青年中小企業家の青年中小企業家による青年中小企業家のための組織をここに創ろうとしています。その1人として、仲間と共に課題を解決しチャンスに変えて、自らの事業マネジメントに相互に取り込んでいく好循環を創るきっかけになることを祈念してやみません。

大橋 徳久氏 (有)大橋商事・中遠支部



「使った時間とお金は必ず取り戻す！」

昨年の山梨青全交後の全国青年部連絡会の最後に、代表世話人である広浜幹事長より、冒頭の発言がありました。

青全交等、全国行事に参加するためには平日の2日間と参加費や交通費宿泊費など、決して安くはない費用がかかります。しかし、会社で業務にあたっているだけでは絶対に得られない深い学びと、日々奮闘する全国の同友会の仲間から得られる刺激を受けられます。その学びと刺激をしっかりと経営に活かし、実践することで使ったお金と時間を必ず取り戻し、経営者も会社も成長する。私も都合のつく限り、全国大会に参加して来ました。そして多くの学びと全国の仲間から多くの刺激を受けてきました。また、学び実践する中で2011年の青全交で報告者を務めさせて頂きました。

来年度、静岡同友会に青年部が設立されます。より多くの学びと刺激を静岡の若いメンバーにも受けて頂き、その実践によりよい会社、よい経営者を一人でも多く排出し、全国大会の報告者を送り出す。そんな青年部活動が活発に行われるよう、立ち上げメンバーとして関わっていきます。そして、若いメンバーに負けぬよう、地域に無くてはならない企業づくりを更に加速していく覚悟です。

同友会3つの目的の総合実践としての青年部活動を行い、静岡同友会の活性化地域社会、経済の活性化に繋げていきます。

穂坂 勝彦氏 (富士宮清掃(有)・富士宮支部)





このたび静岡同友会に青年部設立のための準備会が発足し、メンバーとしてお声掛け頂いたことに感謝いたします。同友会に入会してちょうど10年が経ちますが、青年部活動が活発になることで「辞書の1ページ」がまた増えることに期待しております。

私が同友会に入った動機は「人脈を増やす」ことでした。先代の父が突然病床に伏し、経営について何もわからない自分を支えてくれたのが同友会の仲間だったのです。同友会の諸先輩方が経験してきた様々な苦労話や経営哲学を、人と人との交流の中で少しずつ自らの糧とし、また悩みがあってもすぐ傍に相談に乗ってくれる仲間がいる心強さで経営者としての学びを得てきました。

また、入会した年に初めて参加した徳島での青全交は衝撃だった思い出があります。自分と年齢が近い全国の経営者諸氏のパワーを体で感じ、不安ばかりだった自分自身の努力の足りなさを思い知らされて帰ってきました。それからは支部内だけにとどまらず、機会あるごと積極的に他支部へ出向いて仲間を作り、学びを得てきました。支部を飛び出して気付いたのは、それぞれの支部毎に違ったパワーがあるという事です。支部内に留まり「井の中の蛙」でいるだけでは気付かなかった多くの学びがあるのです。これが同友会の「辞書の1ページ」だと実感しました。

青年部ができることで三十代、四十代の仲間との交流の場がさらに広がります。バリバリ働き盛りの経営者たちが刺激し合うことで化学反応が生まれ、アイデア溢れる学びの場が出来上がることを青年部に期待しています。

大川 隆久氏 (フエタ工業(有)・御殿場支部)



同友会という組織の中での青年部設立という準備・議論をする前に、私自身も同友会活動に参加して10年以上経ちますが本来の同友会の理念を再確認し原点に立ち戻って考えてみました。

同友会の理念にある「自主・民主・連帯」の精

神を入会当時に先輩経営者より教えていただき、中小企業を取り巻く厳しい経済環境を乗り越えていくには、同友会の学びの中で理念に基づき経営者自身が成長しなければ生き残れないと実感しました。また、各支部における「我が経営を語る」例会での会員の生々しい実践報告を聞く都度、自社の問題に置き換えて考え、同友会活動が自社・自己の成長・発展につながるように学んできました。

今回、青年部設立準備会メンバーとして招集がかかった時、率直に私の中で2つの疑問が浮かびました。一つ目の疑問は、他団体のJCやYEGなどの青年部のような組織との違いは何か？二つ目の疑問は、上記のような同友会本来の活動をきっちりやっていたら、各支部の中での青年部は不要ではないか？この二つの疑問を解消するため、先般富士で開かれた「第一回青年部準備委員会」に参加しました。他支部の方々も同様の疑問を持っていたようで、準備会の討議の中で「同友会らしい青年部」とは何か？とどんどん討議が進む中、高田磨人氏(天ふじ・富士支部)がコメントされた意見が「同友会青年部の中から経営について真剣に取り組み切磋琢磨して、メンバーの中から『青年経営者全国交流会』で報告できるような立派な経営者を輩出しよう」というものでした。私も、これだ！と感じました。静岡県の各支部で交流を深めながら青年経営者が同友会の理念に基づき、良い会社を作りながら、その成果の発表の場として青全交を目指す！あたかもB級グルメの全国大会のように“同友会甲子園”のような位置づけなら面白いと感じました。早速、自宅に帰ってから支部の名簿で会員の生年月日を調べ、50歳以下(仮に50歳以下を年齢的に青年と定義した場合)を確認したところ、榛原支部160名のうちなんと過半数以上が『青年経営者』、心の若さで青年を定義するならば、ほぼ全員が“心の青年”ではないかと思われる顔ぶれでした。

ということで同友会のこれからの担う青年経営者の育成や各支部の活性化の為にも県全体の青年部設立というのは意義のある試みではないかと思えます。

宮園 義実氏 (有アグリ開発・榛原支部)

第33回景況調査 記者発表



静岡同友会政策委員会は昨年12月25日（金）静岡市政記者室にて、第33回景況調査集計結果（速報）について記者発表しました。会員からは遠藤会長、望月政策委員長、青山広報情報化委員長、そして顧問の山本義彦名誉教授（静岡大学）と今期調査から執筆頂いた太田隆之准教授（同大）にてマスコミ各社に発表しました。

今期調査は昨年11月下旬～12月上旬に会員から380通（回答率38.9%）の回答を頂くことができました。

集計結果の概要として、売上高、経常利益共に前年同期に比べて回復基調を示しつつも、業況判断は▲6.1（前回6月調査▲2）と後退している現状を報告。さらに6ヶ月後、1年後の先行き見通しも悪化傾向であると答えた企業が増したことも説明。また人手不足感も深刻で、労働力が不足している割合は▲33.4と調査開始以降、不足感が増していると伝えました。

静岡同友会の景況調査は、地域経済に根ざす会員企業の景況感を把握することで、地域の景況感・各業種の業況感を捉え、企業経営と同友会活動に生かす目的で、1999年5月から統計を開始しました。調査結果は、行政、大学、報道関係者等に公表し、地域社会の公共財の認識の下に活用しています。

地域別・業種別・規模別の詳しい集計結果は、「e.doyu掲示板」並びに「静岡同友会HP（政策委員会）」に掲載しています。なお、今回の調査では初めて「経営指針と業績」の相関も掲載しています。ぜひご覧ください。

三島支部賀詞交歓会 基調講演

いま我々がすべきこと ～同友会と地域振興条例～

1月21日（木） 三島商工会議所 参加36名



河原崎 信幸氏

昨年、三島市において地域振興基本条例が制定されました。その基礎となったのが、富士宮の条例です。この日の講師として講演して下さったのは、この富士宮市における地域振興基本条例に尽力された河原崎信幸氏（シンコーラミ工業㈱・富士宮支部）でした。

1980年、父親が経営するパール紙工に入社し、その後シンコーラミ工業㈱を設立。ニッチ市場戦略が功を奏し4期目で利益を出すまでになり、1888年に社長就任。高額所得法人となり盛大な周年行事開催など右肩あがりの10年でした。大口取引先、メインバンクの破綻、新鋭機の加工工場焼失などの逆風もありましたが、2005年に復興を遂げ、更に業績向上を続けます。一方で、力強い経営手腕のかたわら、不眠

症の闘いの40年でもあった河原崎氏。ただ、眠れない間も、あれこれと思いをめぐらしては頭の中の引き出しにアイデアを貯めていくという、辛い時間をも前向きにとらえていく姿勢はさすがです。

2010年、事業継承してからは、自分の死が会社の危機ではなくなった安堵からか、不眠症も改善されたそうです。また、引退するには早いと思われる年齢ながら惜しげもなく譲ったのには、社会保険労務士という資格による新たな仕事と同友会をはじめ多くの団体の中での社会貢献活動へのさらなる意欲があったことが理由でしょう。

「茹で蛙になるな」「明日死ぬが如く生き、永遠に生きるが如く学ぶ」「火事でつぶれた会社はない」など心を支える多くの言葉を糧に、益々精力的に地域活性に活動される熱い講演でした。

塩崎 敬子氏（塩崎敬子デザイン事務所・三島支部）

支部だより

富士宮例会

**中小企業振興基本条例に故郷への思いをこめて、
未来の子供たちに手渡す地域社会をつくろう**
～同友会三つの目的は、地方創生のカギとなる我々
中小企業家の条例運動です！～

1月8日(金) 志ほ川バイパス店 参加50名



宇佐美 健介氏

新年最初の例会は、2月18日・19日に香川で開催される「第46回中小企業問題全国研究会」での報告を控えた我が支部の支部長、宇佐美健介氏(有)エージェントうさみ)の登壇です。支部を代表して全国大会で報告する支部長を、

皆で叱咤激励し送り出す。この目的のためにオブザーバー含め50名の参加者が集いました。報告内容は、昨年4月に施行された富士宮における条例制定運動の歩みや、同友会富士宮支部としてのかかわりの歴史がメインでした。同友会に入り、そこで学んだからこそ自分が変わり、地域と中小企業は不離一体の関係であることに気付く。それこそが、元来より熱い宇佐美氏に更なる火をつける導火線であった…。報告が終了し、テーブル毎に報告内容で気付いた点、修正した方がよい点などを議論し、発表をするというスタイルを今回はとりましたが、真剣に傾聴していた分、指摘も的確で、よりよい報告が出来るためのアドバイスを皆で出来たと思います。

是非、全国でより多くの会員が条例運動に関わる事の大切さに気付き、宇佐美氏の報告がその心に火をつける導火線になってもらえる事を期待します。

鈴木 高史氏 (有)鈴木製作所・富士宮支部)

中遠例会

経営者と共に前へ進む管理職

1月28日(木) ワークピア磐田 参加8名



遠藤 健正氏

今回の報告者は遠藤健正氏(有)大橋商事)。当支部の支部長であり、同社の代表取締役である大橋徳久氏とは親族関係のない立場でありながら、営業部長として大きな裁量を与えられ、留守がちな社長の代わりに会社の日常業務の多くを任されている遠藤氏。様々なエピソードの中で、社長から信頼を得たことを実感し、それに懸命に応えようとする姿が報告されました。遠藤氏は、常に経営理念に照らし自分のなすべき行動を考えている、とのこと。社員を育てるには「信じて任せる」ということがいかに重要かを窺わせる

内容でした。

それにしても遠藤氏、実に話がうまい。これで食べていけないのではないかと思わせるほどです。今回出席の藤原代表理事も、「こんなに素晴らしい人が中遠支部にはいる。多くの人に知ってもらわなければもったいない。もっと支部を大きくしてほしい」との注文、いや激励を受けました。

最近取り組み始めたという「遺品整理」の現場の生々しい話と共に、他支部の会員の皆さんにもぜひ聞いて頂きたい報告となりました。

鈴木 弘之氏 (税理士法人 あい会計・中遠支部)

御殿場支部

経営者は孤独じゃなかった

1月13日(水) エピ・スクエア 参加56名



遠藤 直樹氏

遠藤直樹氏(株)マルエ)による、我が経営を語る例会。遠藤氏は一度同友会を退会されていた時期があります。その間遠藤氏は会社存続の危機に立たされ、大変な苦勞をした経験を赤裸々に語りました。

先代より森林伐採業を営んでいる同社は、バブル期には首都圏の大規模造成工事における請負伐採工事など、静岡県内にとどまらず関東一円を営業範囲にする非常に忙しい企業でした。しかし当時の社員に対する対応は昔ながらのトップダウン経営で、不当な扱いを受けていた社員との間には労働争議が絶えなかったそうです。先代よりバトンタッチした遠藤氏が平成11年に同友会へ入会し「人を活かす経営」を自社で実践することで、社員から自発的に提案・改善をし、「会社のルールは経営者が作るのではなく、社員が作る」企業へ変わりましたが、ある日事件が起きます。第2創業として始めた食品残さ飼料化事業で産業廃棄物処理法に抵触する事件が発生し、産業廃棄物処理業の許認可取り消しを受け、事業継続困難のため一度は会社を畳む決意をしたそうです。社員も希望退職し、新たな就労先を融通しました。ところが会社清算を進めていたある日、数名の社員たちが「また会社の原点である森林伐採業から始めよう」と手書きの経営計画書1枚を握りしめて戻ってきました。そこで遠藤氏も奮起し、この「仲間」とまた森林伐採業を立ち上げました。

遠藤氏が経営者として進めていた「人を活かす経営」が会社を作り、人を育てる。生々しい報告の中で、感動を覚える例会となりました。

大川 隆久氏 (フエタ工業(有)・御殿場支部)

同友しずおかVOL.445 (12月号) P8. 榛原例会の執筆者に誤りがありました。正しくは「富田 勇気氏 (富田建業・榛原支部)」です。皆様にはお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

静岡大学連携講座「企業経済特論Ⅳ」



第12講 1月13日(水) 障がい者だから教えてもらえた 伏見 修氏 (株)富士山ドリームビレッジ

前半では、自社と障がい者支援事業の概要、「障害者」の定義や種類、取り巻く法的環境などを説明。後半では、身近にいる障がい者、障がい者と対峙するには「普通に接すること」が大事、そして「人の出会いが人生を変える」ということを、自身が障がい者との出会いで変わった体験談を基に話しました。最後に、何が目標・目的か見定めることの大切さと、「いつになっても遅くはない」というメッセージを、これから人生を構築していく学生に伝えました。

第13講 1月20日(水) 大切な人を見送る心に寄り添って約400年 佐藤 浩美氏 (有)佐藤葬具店

時代と共に変化してきた葬儀の様式・葬儀に対する考え方、一方で今も昔も変わらないお葬式の4つの意味、そして佐藤氏の仕事への向き合い方を話しました。佐藤氏は自身の仕事を「生と死に向き合う仕事で、ビジネスだけではいけない。遺族と真摯に向き合い、記録ではなく記憶に残るお葬式にしてあげたい」と語ります。葬儀の歴史だけではなく、生と死について考えるきっかけとなる講義となりました。



第14講 1月27日(水) 中小企業憲章 杉村 征郎氏 杉村精工(株)

「中小企業は、大企業とは別個の経済・社会的な存在であり社会的発展の源」と、中小企業の役割を説明。そして、平成22年に閣議決定された中小企業憲章について触れ、現在は日本全国の地域で、中小企業振興基本条例の制定を目指した運動が行われていることを紹介しました。最後に「飛び交う様々な情報に翻弄されぬよう、物事を多面的に見るようにしてほしい」と学生に伝えました。

講師を務めてくださった会員の皆様、お忙しい中を本当にありがとうございました。また、静岡大学連携講座にご関心を持たれた方がいらっしゃいましたら、事務局まで是非お問合せください。



連載～激動の時代の羅針盤～ 経営指針 第57回

私は14年前に会社を継ぎました。「絶対に会社を潰さない！」それが私の使命だ。責任感の為だけに必死で仕事をする毎日でした。社員も少しずつ増えていく一方で、社員には「僕の言っていることだけやればいい！」「何で言っていることがわからないだ！」と怒鳴ることも…。このままでは駄目だ。会社が潰れてしまう」と経営の在り方に疑問を抱き始めます。そんな時に創る会の話聞き、「経営指針がないことが原因では？」と迷わず入会しました。

夏の一泊研修の発表では「大学のレポートを書いているんじゃない！これは自分自身の事を書いていんだ！」と厳しく指導して頂きました。いつも抽象的に発言をしようとする私。自分自身の想いになかなか向き合う事が出来なかつた私。沢山の気づきを頂き、研修後も自問自答し続けました。「何の為に仕事をするのか？何の為に生きていくのか？」悩み続けた結果、やっとの思いで理念を創り出すことが出来ました。それも厳しく指導して頂いたスタッフの方々、悩みを打ち明けられる仲間がいたからこそと実感しています。

そして初めて経営指針発表会を行いました。初めて私の想い、会社の未来を社員の皆に伝えました。「社長の想いが初めて聞いて嬉しかった」「これから皆で頑張っていこう！」社員皆が同じ方向を向き頑張るようになりました。仕事の役割も明確になり、良いチーム作りについて話し合うなど、皆が楽しく、やりがいをもって仕事をしています。これまでに就業規則の改定、賃金の見直し、管理会計の仕組みづくりを行いました。新卒者の採用、安定顧客の獲得など、まだまだ課題は山積みですが、社員皆で夢が持てるような会社創りをしていきたいと思えます。

創る会では、全てをさらけ出し自分自身と真剣に向き合うことが出来ました。経営の在り方、想いにも気づく事ができ、社員の幸せを真剣に考えられるようになりました。ここまで変わりそして実践出来ているのも、この会に受講させて頂けたからだと心から感謝しています。

経営指針を創る会第11期卒業生
三輪 雅則氏 (株)マルイチ・榛原支部

縁を大事に！行動力が輝くユニフォーム屋

(株)ギャロップ

代表取締役 高田 奈々氏 (静岡支部)

事業内容：ユニフォーム卸 (作業着、事務服、イベントブルゾンTシャツ、お年賀タオルなど)

設立：2009年7月

従業員数：正規1名

入会：2014年10月

所在地：静岡市駿河区中吉田1-15

TEL：054-207-8062

URL：<https://www.facebook.com/gallopworks/>

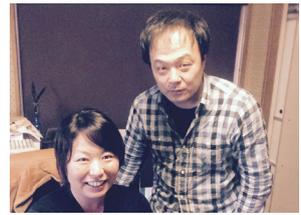
作業着を主軸にユニフォームを卸・販売

静岡市内でユニフォーム、作業着の卸・販売を行う(株)ギャロップは、前身の石井商会から数えると60年続く老舗企業です。取引先は、大手百貨店から一般企業、個人のお客様まで幅広い客層に対応されています。取扱い商品の構成は6割が作業着、2割が事務服、残りがプリントTシャツ等となります。

付加価値を高め、荒利率を改善

高田奈々氏が社長を引き継いだのは2012年頃。それまでの粗利益の低さに愕然とし、付加価値を上げるために、プリント加工や小口注文に注力します。作業着、ユニフォーム本体を売り物にすると、単純に価格競争になってしまうため、会社名やロゴマークを入れ、作業着の種類、色、プリントのデザインを提案することによって、付加価値を高めていきました。また、比較

的粗利率の取れる小口注文も、高田氏持前の面倒見の良さで、職人さんや個人のスポーツチームのお客さんを増やしていきました。その甲斐あって、引き継ぎ当初10%前後だった粗利益は30%を超えるまでに改善しました。今のインターネットの時代、物を売るだけでは生き残れない、と何度も語っていたのが印象に残りました。



高田 奈々氏(左)

Facebookでの縁をフル活用

高田氏は営業活動や人脈を広げるため、Facebookをうまく活用しています。Facebookで仲良くなった社長の所に話を聞きに行ったり、営業に行ったり、会社のFacebookページがホームページ代わりになっていると言います。同友会への入会も、山崎製作所の山崎かおり氏とFacebookで繋がっていたのがきっかけでした。入会後は積極的に例会や委員会活動に参加する高田氏。色々な会員企業の成功例を聞くのがとても面白い、と言います。

現在、自宅に事務所や資材置き場を設けている高田氏には、夢があります。お客さんや地域の方が気軽に立ち寄れる、地域に貢献できる店舗を作ることです。今は夢に向かって色々なことを勉強し吸収する時期、これからも立ち止まらずに仕事に邁進していきたい、と語ってくれました。

取材・記事：藤本 浩氏 (プリントバリュー(株)・静岡支部)

経営理念は「捨てないごみや」「綺麗なおみや」「誇れるごみや」

(有)富士清掃センター

代表取締役 大竹 政彦氏 (富士支部)

事業内容：ゴミ収集運搬業務、中間処理業務

設立：1987年10月

従業員数：正規3名

入会：2009年3月

所在地：富士市津田189-1番地

TEL：0545-55-0174

「経営指針を創る会」で光明を見出す

富士市で廃棄物処理の仕事を行う(有)富士清掃センター。大竹政彦氏は、同友会入会3年目に経営指針を創る会で学び、そこで初めて理念経営の重要性を実感しました。そして、自企業とはどうあるべきかを正面から見据え、キツイ、汚い、臭いという3Kのイメージを何とか変えていきたいと必死に模索しました。そしてついに「今イメージされている清掃業の逆を目指せばいい」という答えを見出し、それを理念に掲げ、走り出しています。

突然の事業承継から、理念の実現に全社で邁進

支部内役員の実験や経営指針を創る会での学びから、理念経営を進めていこうと考えていた矢先の2012年、先代が急逝。そして大竹氏は、先代から突然承継する形で代表に就任しました。そこからは、自ら作成した経営指

針書に基づき経営します。まずは理念のひとつである「綺麗なおみや」を実践し、自社の白いパッカー車を毎日洗車。ゴミの回収場所も必ず清掃をしています。また、「捨てないごみや」という理念のもと、リサイクル業を新たに始め、事業の第2の柱とすべくゴミの中間処理施設を開設。現在はビニールなどを助燃剤として利用するなどの業務を行っています。こうした取組みの中、社員さん全員が「誇れるごみや」となるべく、日々の業務を行っています。



大竹 政彦氏

トップ営業を目指して組織改革

現在大竹氏が経営面で重きを置いていることは、組織作りと、自分自身が日常業務から外れ、主として売上の拡大が図れる営業への特化です。そのため、ベテランの社員を主任に昇格させて配車を手配させるようにするなど、なるべく現場から離れて、自分が自由に動けるようにしています。

作成した理念を具体的な実践に結びつけ、企業変革に努める大竹氏の姿勢は、私にとっての模範ともなっています。今後益々の成長が、目に見えるようです。

取材・記事：望月 光太郎氏 (有望月・富士支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数991名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
わたなべ けいた 渡邊 啓太	ハッピーライフ 保険業 (総合的なリスク・コンサルタント)	伊東支部	土屋 順史	ね ぎし 根岸 優	アイエム(株) 保険代理店業 (損害保険 (自動車、火災、傷害、賠償等)、生命保険)	浜松支部	永井 忍
はら だけいたろう 原田慶太郎	(株)富士管材機器 卸売業 (管材機器、建設資材)	御殿場支部	杉山 正英	かわい ともゆき 川合 智之	(株)伴鍾 キャリア・コンサルタント (キャリア・コンサルティング、不動産管理)	浜松支部	事務局
たしろ やすのり 田代 穂徳	フィオーレ田代 花・植木小売業 (生花、園芸)	静岡支部	太田 誠	なかがわ まさき 中川 真樹	デトックスサロンMAKI エステティック業 (エステティックサロン (オールハンドの施術)、物販 (健康食品、化粧品))	浜松支部	阪西 敏治
おかもと ねこ 岡本 猫	salon de Cats 飲食業	静岡支部	青井 嗣	◆名義変更による新名義人(敬称略) 旧名義人			
いのうえ しゅうじ 井上 秀治	花咲 飲食業 (創作料理)	静岡支部	望月 宣典				
ひらしま まさじ 平島 政二	平島まさじ行政書士事務所 行政書士	静岡支部	風間 重樹	は せがわゆうた 長谷川雄大	(株)花ごよみ	御殿場支部	長谷川 栄作
みうら としひで 三浦 敏秀	すけろくどりーむ(株) 飲食業 (居酒屋メニュー、創作・会席料理)	榛原支部	堀池 勇	の ぐち だい 野口 大	(株)微助人	沼津支部	野口 繁明
いむら けいこ 井村 圭吾	井村印刷 印刷業(パンフレット、チラシ、名刺、封筒、伝票類各種の印刷)	浜松支部	阪西 敏治	かわむら ともみ 川村 友美	こるどん(株)	静岡支部	後藤 百合子

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第23回

田中美次さん(田中肥料(株)・榛原支部)からバトンを受け取った、兵藤弘昭です。第8期 経営指針を創る会では、田中さんをはじめ多くの方に出会いました。その中で特に印象深く、強い影響を受けた、大竹政彦さん(㈱富士清掃センター・富士支部)に次のバトンを渡したいと思います。

創る会で初めて会った時の大竹さんの印象は、自分のことをあまり語らない、どこか陰のある人、というものでした。その後、一泊研修のときに大竹さんが、自ら望んで廃品回収業の仕事をしている訳ではなく、奥様の実家の生業を継続するために現在の職業を選択していること、そして世間から「ゴミ屋」と言われ、自らの仕事に誇りややりがいを持って悩んでいたことを告白してくれました。当時、私も同じように、仕事にやりがいを持って悶々としていました。その頃弊社では、生命保険および損害保険を含めた掛け捨て保険も販売し、そこから発生する販売手数料を生業としていました。しかし、保険販売は、しつこい勧誘とお客様をそそのかして加入させるような「保険屋」として見下される偏見に晒され、私自身も仕事に対して後ろめたい気持ちもありました。これを何とかしたいと思い、私は創る会に救いを求めたのかもしれませんが。

その後、大竹さんは自社の経営理念の発表で「綺麗なごみや」という言葉を、搾り出すかのように発表しました。そのとき、私の頭の中で鐘の音が鳴り響き、魂が共鳴したかのように涙が溢れました。

そして私は、掛け捨て保険からは撤退し、支払った金額以上戻りような利回りの高い外貨を中心とした保険商品販売を生業にしようと思いました。そして、これなら将来訪れる日本の財政危機にあってもお客様の財産を守ることができる、と信念を固めることができました。

当時のドル建て保険レートは1ドル80円でした。現在の円安によりお客様の金融資産は劇的に増加し、多くのお客様から喜びの声を頂けるようになりました。

大竹さんの魂の言霊が私の人生を決定づけ、「保険屋」から真の「ファイナンシャルプランナー」に脱皮させて頂いたことに心から感謝しています。

兵藤 弘昭氏 (静岡ファイナンシャルプランニング(株)・沼津支部)



同友会イントロセミナー IN 志太

1月26日(火) 参加27名

オブザーバ9名を迎え、他支部からも応援が駆け付けた今回のイントロセミナー。報告者の寺田卓正氏(株)ニューウェーブ)は、同友会に入り理念をつくることで、新たな事業領域を見つける事ができ、また自分の想いを社員に伝える際にも役に立ったと語りました。「経営の悩み」という経営者に普遍のテーマで行ったバズセッションは大いに盛り上がり、時間が足りないと感じられるほどでした。早速入会を決めるオブザーバもあり、会員増強に繋がる中身の濃いセミナーでした。



寺田 卓正氏

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。